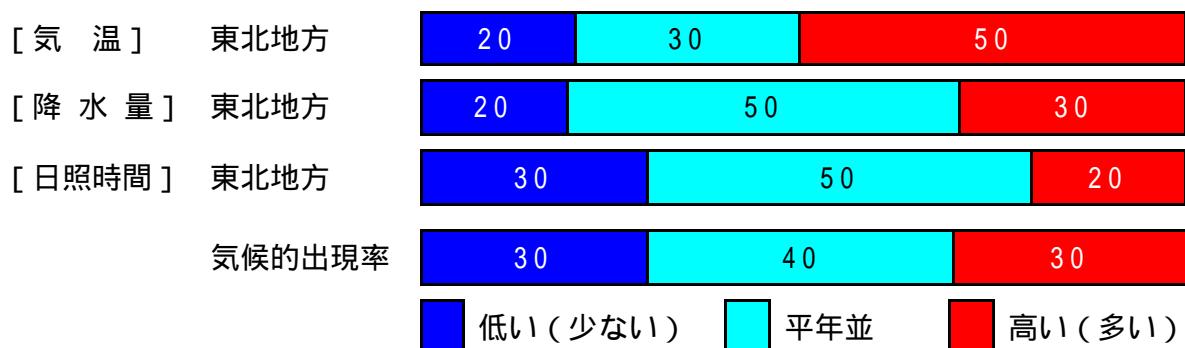


東北地方 1か月予報の解説(予報期間:10月2日~11月1日)

平成11年10月1日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で30%です。「低い」の確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。平年同様晴れの日が多いでしょう。

この期間の平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は約16日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 2~3日と6日に気圧の谷の影響で天気がくずれる所がありま
(10月2日~10月8日) すが、その他の日は概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は約4日です。

なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。

2週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高い見込みです。

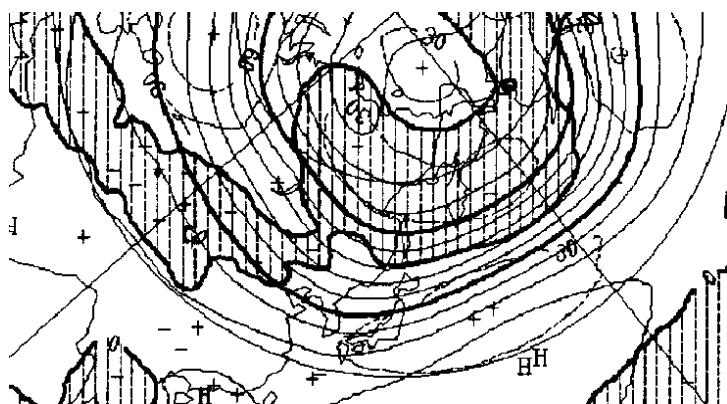
平年の晴れ日数は約4日です。

3~4週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。

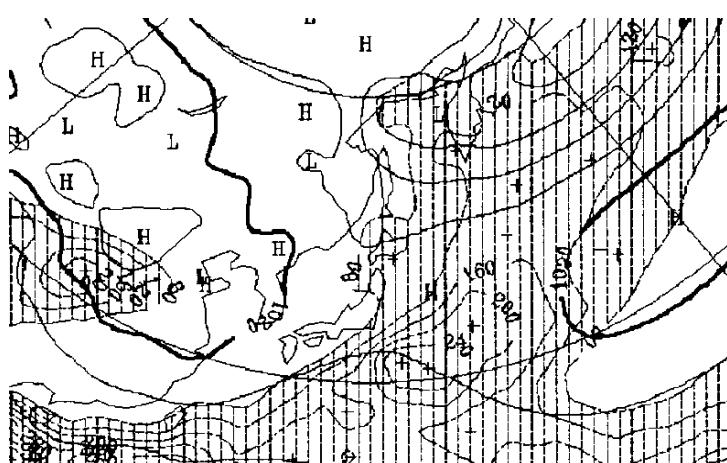
平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は約8日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度 : 60m 每、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 每、陰影部 : 80mm 以上)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は日本の東海上を中心とした正偏差に広く覆われる。また、日本の南東海上にある高気圧の勢力は平年より強い。流れはゾーナル^{注1}だが、西谷^{注2}傾向を示す。このため、天気は周期的に変化するが、寒気の南下は弱く、気温は高めに経過しやすい。

注1)ゾーナル：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。

注2)西谷：上空で日本の西側が気圧の谷となり、南から暖かく湿った空気が入りやすい。

・ 地上気圧と降水量

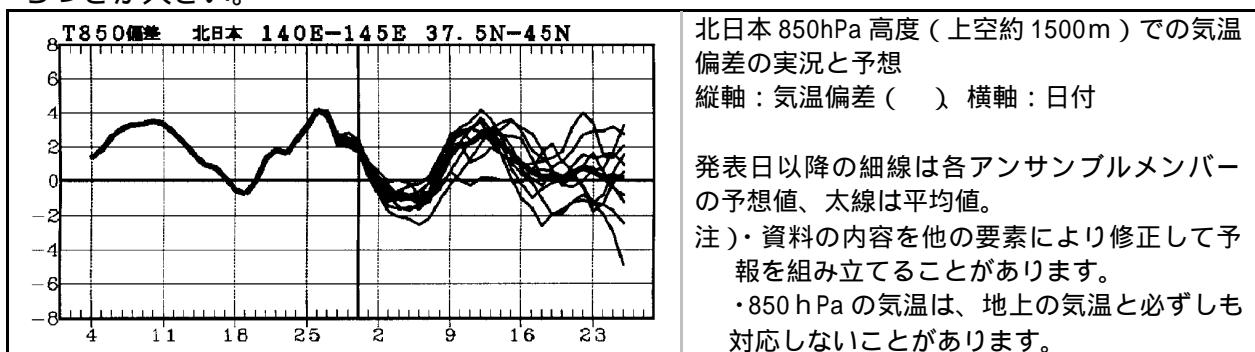
月平均でみると、本州の南海上には前線に対応してまとまった降水域が予想される。北日本には、日本の北を通過する気圧の谷に対応した降水域がかかっている。

日本付近に特徴的な気圧配置が見られないで天気は周期的に変化する見込み。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバー

の予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目は平年並から低めが予想されるが、2週目には再び高くなる予想。3週目以降はほぼ平年並だが、メンバーのばらつきが大きい。

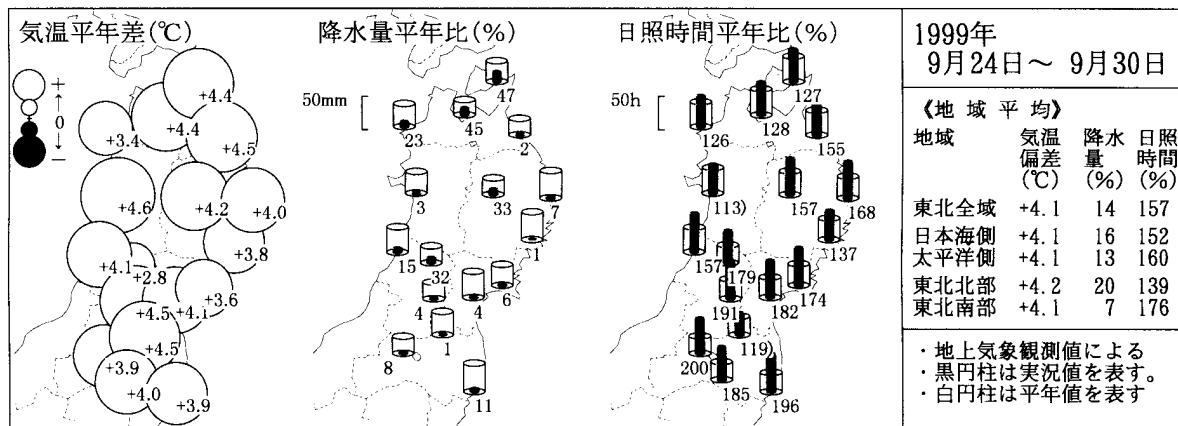


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間(9月24日～9月30日)の天候の経過

この期間、24～25日にかけて台風第18号が日本海を北上したため、日本海側では強風となり、青森県を中心にりんごの落下などの被害が発生した。またこの台風により発生したフェーン現象で日本海側では各地で真夏日となり、秋田では最高気温が34.4と9月としては第2位の記録的な高温となった。その後は高気圧に覆われ、晴れの日が続いた。

平均気温は東北地方で偏差が+4.1と平年よりかなり高かった。降水量は東北地方で14%と平年を大きく下回った。日照時間は東北地方で平年比157%と平年を上回った。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)